

JTSU-B  
申17号

## 2021年7月1日開業予定の 高速バス新規路線に関する申し入れ **その1**

2021年4月1日、ジェイアールバス関東会社と関東鉄道株式会社は7月1日、茨城県西部の**境町**と**東京駅**を結ぶ**高速バス**の新路線を開設すると発表しました。**茨城県境町**は、古くは江戸と奥州を結ぶ交通の要衝として栄え、坂東太郎といわれる利根川と栄枯盛衰をともにしてきた「河のまち」と言われており、春には利根川の河川敷を菜の花が覆い、関東の富士見百景に選ばれるなど、自然に囲まれた、水と緑の豊かで、人口が24,012人、世帯数が8,989世帯（2021年5月1日現在）の町です。

茨城県古河市などに隣接する境町は鉄道がなく、最寄りの鉄道駅まで40分程度かかるなどアクセスが不便なことから、都心と乗り換えなしで直結する高速バスの需要が見込まれています。2015年の圏央道境古河インターチェンジ開通を好機に町として企業誘致を積極的に行い、2017年には境古河バスターミナルが整備され、成田空港への高速バスが発着しています。

報道などによると、「**1日16便（8往復）**」「**運賃は大人1700円、交通系ICカードは1500円に割引**」「**上りの所要時間は境古河バスターミナルから圏央道、東北道、首都高速道路を経由し東京駅日本橋口まで1時間40分～50分**」「**王子駅にも停車**」「**東京駅八重洲南口からの下りの所要時間は80分**」「**通勤・通学需要を見込み、割引率の高い定期券も導入し、1ヵ月の通勤定期の場合、49%の割引で5万2千円**」とする予定であることが明らかになっています。

一方職場では「開業まで1ヵ月を切ろうとしているのに詳細が不明で会社からもうまだに何の説明もされない」「ネットニュースの報道で初めて知った」「寝耳に水だ」といった声が噴出しています。コロナ禍で収支状況の厳しさが続く中で、コロナ後を見据えた新たな需要喚起と経営基盤の再確立のための攻めの施策とも言える新規路線開業については理解しますが、基幹路線へと育てていくには施策を担い現場で働く組合員に情報が前広に周知され、理解納得を経て開業日を迎えなくてはなりません。従って次のとおり申し入れを行いました。